

# 質 問 通 告 一 覧

平成26年島田市女性議会

平成26年 7 月 30 日

島 田 市

◎ 発言順位

				(頁)
2番	田代	寛子	さん (一問一答)	1
9番	青山	朝美	さん (一問一答)	2
1番	宮崎	友理子	さん (一問一答)	4
4番	永田	美津江	さん (一問一答)	6
6番	牧野	祥子	さん (一問一答)	7
10番	小林	博子	さん (一問一答)	8
11番	池谷	愛子	さん (一問一答)	9
3番	高木	紀子	さん (一問一答)	10
8番	河原崎	奈都子	さん (一問一答)	11
7番	森下	文子	さん (一問一答)	13
5番	柴田	みよ	さん (一問一答)	14

## 1. 2番 田代寛子 さん (一問一答)

### 1. 島田市民会館の再建について

私の訴えは島田市民会館の再建です。

まずは現状から説明していきたいと思います。私が通う島田高校では、文化祭1日目の会館公演、演劇教室、吹奏楽部の定期演奏会で市民会館を利用していました。しかし今年から会館が使えなくなったため、文化祭は体育館での公演、演劇教室と定期演奏会は2回に分けての開催になりました。そこで様々な問題が生じました。

体育館のステージの拡張や必要な備品をそろえる際に会館を借りる以上の費用がかかってしまいました。照明設備や音響設備、空調設備も市民会館のものほどよくはないため、例年に比べ劣った文化祭になってしまいました。本来、会館公演は文化部のみなさんが保護者や、地域の方々に日ごろの成果を披露するための会館公演です。しかし体育館は狭いため、保護者の皆さんや地域の方々をご招待することも不可能になりました。ここに挙げた以外にも様々な問題点がありました。

私は文化祭を計画し、運営する立場であったため、島田市民会館が使えないことに、一般生徒以上に不便さを感じました。これは、島田高校の文化祭だけにいえることではなく、他の市内の高校や、今まで市民会館を使っていた団体のみなさんにも言えることだと思います。

以上のことをふまえ、島田市には市民会館という大型施設が必要だと思います。

次に私からの提案を述べたいと思います。島田市民会館を再建する際、学生のための自習ブース、地域の方のための交流ブース、子供のための遊び場、地域の特産物を売る商業ブースなどを兼ね備えた複合施設としての再建を提案します。そのような大型施設ができることにより、島田市の経済相乗効果や文化の発展にもつながると思います。大型施設を建設するためには、膨大な金額がかかることはわかっています。しかし、次世代を生きる私たちが借金を負ってでも、島田市のシンボルとなる大型施設を建設する価値はあると思います。

是非、島田市民会館再建のご検討をお願いします。

以上です

- (1) 島田市民や市内の学校に通う学生が行った市民会館再建の署名が市長のもとに届いたと思いますが、私たちの思いをどのように受け取っていただけましたか？
- (2) 島田市民会館の今までの使用状況を教えてください。
- (3) 私の提案である1,000人以上収容可能な大ホールを持つ複合施設としての再建をどう思いますか。
- (4) 島田高校を例に挙げさせていただきますが、学校の体育館で文化祭を行った場合、先ほど説明したような問題が生じました。そのような場合、市で今まで会館を使っていた時の使用代金と学校で行った際レンタルした設備代金の差額を援助していただけますか。

## 2. 9番 青山朝美さん (一問一答)

### 1. P T Aの現状について

私は今、島田市P T A連絡協議会会長も仰せつかっています。今回の女性議会での発言機会を得て、P T Aを代表する立場として、P T Aの現状や問題点を報告させていただきます。まず、会長や副会長などの大きな役職のなり手がいません。「子どもたちのため」と謳っているP T A行事は、前年度に倣って今年も無事に遂行されたという事実を作るための行事になってしまっています。役員を引き受けたものの、夜の会合に出席するためにやりくりをしている親もいます。

P T A活動が親にとって物理的かつ精神的な負担となっている事実は否めません。古い体質をいつまでも続けるのはやめて、無理なく楽しく親のためにもなる時代のニーズに合ったP T Aに改革していく必要があると考えます。

その一方で多忙にも関わらず、貴重な時間を割いてP T A活動に意欲的に取り組む多くの親たちがいるのも事実です。私自身も8年間P T A活動に関わってきましたが、その中で多くの人と関わる事ができ、ネットワークが広がったと感じています。また、1人の保護者としての立場だけでは理解できない学校の実情も理解する事ができました。

P T Aの実情を知っていただき、市を挙げて頑張っている親を応援し、大きな励み・力を与えていただきたいという観点から、以下について伺います。

- (1) 元教育委員長である染谷市長は、P T Aについてどのような考えをお持ちですか。
- (2) 昨年度、藤枝市のP T A研修会で「移動市長室」を開催し、市長の教育施策にかける熱い思いが保護者に伝わり、大好評を得たと聞きました。島田市でもそのような機会を持っていただくことは可能かを伺います。
- (3) P T A活動をより充実させていくためには、地域との連携が必要と考えますが、具体的にどのようなものが考えられますか。

### 2. 放課後児童クラブの問題点について

初倉小学校区放課後児童クラブでは、指導員と補助指導員との連携が取れており、子どもたちの遊び、生活の内容は充実したものとなっていると感じています。反面、施設面に問題点があると思います。現在、定員30名のところに40名が在籍しておりますが、学校の教室の約半分ほどのスペースに40名の児童が過ごしており、極めて狭い環境に身を置いている現状が伺えます。また、児童クラブ専用のトイレがなく、普段は小学校のトイレを借り、それも使用できない場合には小学校のグラウンドの和式トイレまで行くことになるような状況です。

こうした初倉小学校区放課後児童クラブの現状を見ていく中で、市全域ではどうなっているのか、早急な環境の整備が必要ではないかと思い、以下の質問をさせていただきます。

- (1) 島田市内には放課後児童クラブを希望しても利用できない児童が存在するか伺います。
- (2) 共働きの家庭において、今まで保育園で午後6時～7時まで預かってもらっていた子どもが小学校にあがると親の帰宅まで一人で過ごさなければならない「小1の

壁」小学3年生まで放課後児童クラブで預かってもらっていた児童が4年生になると親の帰宅まで一人で過ごさなければならない「小4の壁」に対して具体的な取り組みがあるか、またはその予定があるか伺います。

- (3) 市内各児童クラブから聞き取り調査を行い、問題点を洗い出し、改善を図っていただきたいと思いますが、そうした考えがあるか伺います。

### 3. 1番 宮崎友理子 さん (一問一答)

#### 1. 島田市の男女共同参画の取組について

私は男性と女性がお互いを尊重し、平等に暮らせる社会を望んでいます。

一般に女性の社会的地位の向上が言われて久しいこともあり、男女が平等に暮らせる社会を、ということはすでに多くの人びとの意識に浸透しているようにも見えます。しかし、残念なことに、「女性はこうあるべき」というような考えは未だに日本のあちこちに点在し、モラルとして生き続けているのです。その上、その「モラル」に縛られていることにも気づかず生活している人さえもいるのが現在の日本の状況です。

このような考え方が取り除かれることが本当の意味での男女平等な社会だと私は考えます。

私が望む社会を別の言い方で表すところということでもあります。

以前、乙武洋匡さんは講演のなかで、「障害者」という言葉のない世界が理想だということをおっしゃっていました。まさにそういうことなのです。「女はこうあるべき」とか「女性の地位向上」などという言葉が死語になるような社会がくること。そんな言葉があったことを忘れてしまう、そういう社会が訪れることを期待しているのです。それは心からお互いをいたわり尊重しあえる社会でもあり、それが導く先には、自ずと男女が平等に暮らせる社会が開けると思いませんか。

さて、ここで一つみなさまに申しあげますが、こんなことばかり強調していると、私はとても気難しい人ように感じられるかもしれませんね。でも私は、みんなが穏やかに楽しく暮らすことを願う、普通の心優しいおばさんです。

私はおよそ 20 年前に島田市に移り住んで参りました。転入した当時、早く地域に溶け込みたい、それには私という人物を知ってもらうのが一番だという気持ちから、いろいろ機会があるごとに自分の意見、考えを述べておりました。しかし、私の意に反し、自分の思っていることが伝わったという手応えは薄く、相手にしっかりと私を理解してもらえただろうか？ 仲良くなれるだろうか？ という、不安な日々が続きました。何故手応えが薄いのだろうと考えめぐねているうちに気づいたことがありました。それは、その当時は、女性というものは少し後ろに控えて、公の場ではあまり発言をしないのがここでの常識なのだということでした。こちらに来る前に住んでいた、私が生まれ育った町では女性に対する考え方はもう少しリベラルで、私はそれが当たり前だと思い込んでいたのです。その土地、その土地で暮らし方が違うように女性に対する考え方にも地域差があると思わなかった私の認識不足でもあったわけですが、その時はそれに気づくことができなかったのです。

しかし時代が進むとともに社会のそのような意識は変化し、今は当時と比べたら、格段に暮らしやすくなりました。本当に嬉しいことです。それは人びとがそのことに気づき、意識を改革していったことで得られたのだと思います。障壁があってもみんな考えて意識は変えられるのだということでしょう。今、当時を振り返ると、認識不足で視野の狭かった私にとって、そのような体験はとても良い学びの時間だったとさえ感じられます。そして結果的に、この体験は私に男女平等の社会を目指した

いという意識をしっかりと持たせる良い機会となりました。

私たちは今、男女平等という社会に向かって歩いている途中だと思います。

より前進するには現状をしっかりと把握し、認識すること。そして認識できた課題について考え話し合い、理解することが大切です。

島田市に女性市長が誕生したことでこの問題をより細やかに受け止め解決へ繋がることを願っています。今後、島田市はそうした課題をどのように受け止め、改善していくのでしょうか？島田市の女性の置かれた現状をしっかりと把握し認識するために次の質問をします。

- (1) 市の職員の女性が占める割合はどれくらいでしょうか。
- (2) 自治会長、市の審議会などの委員において、女性が占める割合はどれくらいでしょうか。
- (3) 男女がお互いに尊重し、平等に暮らせる社会の実現に向けた取組について、市長と市民が語り合う機会を持つような計画はありますか？

#### 4. 4番 永田美津江さん (一問一答)

##### 1. 高齢者福祉と中心市街地の活性化について

私は、現在、公益財団法人日本ゲートボール連合公認審判員として、地域での普及に努めております。健康だからこそ、活かされていることに感謝し、今後の高齢者福祉と中心市街地の活性化について提言いたします。

今年度より、公会堂を拠点に高齢者の居場所づくり事業を推進していくと聞いております。核家族化で高齢化社会の到来は、一人暮らしや老老介護との問題が多々あります。また、高齢者の15%が認知症を患っていると言われていた現状では、認知介護などの新たな課題も出てきております。そういう状況下、島田市の取り組みは高く評価するものです。

私は、高齢者福祉施策に合わせ、地域活性化施策として、市が空き店舗を借りて、老若男女が集える多世代交流型の憩いの場づくりとなる（仮称）“まちかどふれあいサロン”を提案します。街中の賑わい創出にも繋がっていく仕掛けも考えていきたいと思っています。

そこで、以下のとおり、質問します。

(1) 島田市に、公会堂の数は何れ位ありますか。

また、一人暮らしの高齢者は何人いますか。

(2) 認知症と診断された人は何人いますか。

(3) 中心市街地の空き店舗は現在何軒ありますか。

(4) 中心市街地の（仮称）“まちかどふれあいサロン”を設置する考えはありますか。

また、設置するとしたらどれ位の予算が必要となりますか。

## 5. 6番 牧野祥子 さん (一問一答)

### 1. 金谷駅前通りの活性化について

JR金谷駅前から大井川鐵道新金谷駅を結ぶ金谷駅前通りでは、今年は金谷茶まつりが盛大に開催されるとともに、大井川鐵道のトーマス運行開始により、市内や県外からも多くの観光客が来るようになりました。

また、宿場町めぐり・さわやかウォーキング等により、金谷駅前通りを歩く人を見かける機会が増えております。しかし、商店街は衰退し、空き店舗も増加しており、こうした状況を懸念する新聞投稿も掲載されました。

自分は「さわやかしまだ」を2年間務め、島田市の良さを感じてもらうことの大切さを経験し、金谷駅前通りの活性化について、まず出来ることはないかと考えるようになりました。

こうした中で、埼玉県春日部市の「シャッター・アート」を知り、これをまち起こしとして活用出来ないか、以下のとおり質問します。

- (1) 金谷駅前通りの活性化策はありますか。
- (2) シャッター・アートの取り組みについてどう考えますか。

1. 障害者総合支援法に於ける重度訪問介護サービスについて

私は7年前の交通事故で頸髄損傷、手足に障害が残りました。体幹保持も出来ないの  
で地面に横たわったら、数センチたりとも動けません。夫・娘・息子と4人家族の妻で  
あり母である私の出来ることは、実質的になくなりました。

公的福祉サービスを1日3回導入する事が自然のなり行きでした。単純に、私にとっ  
ても家族にとっても一番負担の少ない方法であり、唯一の選択肢だったからです。

手厚い公的福祉サービスにより心身ともに安定してきましたが、この先を考えると現  
存の福祉サービスの在り方に窮屈さを感じています。「福祉」という制度に必要以上に  
守られ過ぎて、自分の能力を活用できないでいるのではないかと考えています。公費にも無駄が生じて  
いるのではないかと考えるようになりました。

については、従来のスタイルに加え、札幌市が独自につくりあげたパーソナルアシスタ  
ンス制度に該当する新しい福祉サービスを導入して当事者自身がヘルパーを選択し、自  
分のサービスをマネジメント出来るシステムを提案したいと考えています。

そこで、以下のことについて伺います。

- (1) 島田市における現在の重度障害者(児)の人数について、重度訪問介護サービスの利  
用者数は何人ですか。
- (2) 重度訪問介護サービスを1日に5時間利用のモデルケースだと、ひと月の利用金総  
額はいくらになりますか。
- (3) 新たな制度(パーソナルアシスタンス制度)を導入の可能性はありますか。

## 7. 11番 池谷愛子さん (一問一答)

### 1. 人に優しい地域づくりを目指して

子育て環境は大きく変化し、子育て家庭をめぐる問題も多様化し深刻化しています。育児に対する負担感やストレスから子どもを虐待し、いのちにかかわる事件も後を絶ちません。その原因の一つに近隣のつながりの弱体化や異世代交流の機会がなくなり、地域で孤立化する親子が増えたためと考えられています。お母さんが元気でないと子どもも元気に育たないので、私は、昨年3月に子育て支援の為の相談室を開きました。育児に疲れたお母さんたちが気軽に寄っておしゃべりできる傾聴ボランティア「あい愛サロン」です。さらに元気になってもらいたいとの願いから、地域の方たちと共に支援サークル「ほっとサポートあい愛サロン」を立ち上げ、六合東公会堂を活動の拠点とし、子育て中の親御さんや地域のお年寄りが対象の異世代交流を行っています。

また、近くの農家さんの畑をお借りして「作って食べて元気になろう」を合言葉に、無農薬で安心安全な野菜づくりもしています。そこには障がいを持った方たちも喜んで参加しています。子育てに悩んだ時に「ここに住んでいれば大丈夫」と思えるような居場所づくりと子どもたちが大きくなった時「ここに住んでいて良かった」と思えるように、人と人とが温かく繋がっていったらいいなと願っています。私たちの活動は、まだ2年目に入ったばかりです。もっと多くの方に知っていただき、活動の輪を広げていきたいと思っています。

そこで、このような経緯から以下の質問をさせていただきます。

- (1) この様に個人で子育て支援活動をしているグループが市内に何ヶ所くらいあるか伺います。
- (2) 地域にそれぞれある私たちの様な、小さな支援団体が情報交換できる場があるか伺います。
- (3) 昨年度は静岡県農業振興基金協会の助成を受けて事業を行ってきましたが、島田市にはこの様な助成をしていただける事業があるか伺います。

## 8. 3番 高木紀子 さん (一問一答)

### 1. 島田市の産業支援について

私は、焼津市から嫁いで 26 年になりますが、賑わいのあった地元の商店街がすっかり様変わりしてしまいました。また、職場のある焼津市や藤枝市でも地域活性化が激しく叫ばれており、商店街や地元中小企業の状況は同様に大変厳しい状況であると思われます。そうした中、私自身も何か出来ないかと考えるようになりました。

そこで、島田市の産業支援策について以下のとおり伺います。

- (1) 旧ジャスコ周辺におけるまちづくりの計画があるか伺います。
- (2) 厳しさを増す経営環境に立ち向かうための中小企業への助成制度はどのようなものがあるか伺います。
- (3) 資金繰りが厳しい中小企業の経営改善や事業再生の促進を図るため、市はどのようなことをしているか伺います。

### 2. 島田大祭の参加人員の確保について

島田大祭の運営に支障をきたすほど参加者、特に若者の参加が激減していると聞いております。江戸時代から続く、伝統的な祭典である「島田大祭」の運営について、危機感を感じております。

そうした状況の中、参加者をどう募っていくか、以下のとおり伺います。

- (1) 参加者は総勢何人いるのか伺います。
- (2) 参加者は充足しているのか伺います。
- (3) 参加者の募集はどのようにかけているのか伺います。
- (4) 市では参加者募集について、どう関わっているのか伺います。

## 9. 8番 河原崎奈都子 さん ( 一問一答 )

### 1. シティプロモーション政策について

人口が1人増えるだけで、その人が仮に生涯島田に定住するならば、およそ500万円の税収が見込めます。これが家族単位の生涯賃金の税収となると、その収入は何倍にもなることは想像に難しくないでしょう。

今後、シティプロモーションの中で、観光の交流人口から定住人口にシフトする政策を展開していただきたいです。

交流人口の生み出す経済効果は、一過性のものであり、いわば「水物」であります。

定住人口は、いわば「ルーティン収入」として確実なものであり、安定した市政の展開につながります。

島田市には、歴史的背景がしっかりとした観光資源がたくさんあります。「島田大祭」、「島田鬻まつり」、「金谷茶まつり」など、他に類を見ない珍しい文化もあります。

この観光資源を活かしたシティプロモーションの交流人口と共に、島田に定住することで得られる価値を並行して発信し、魅力を感じ、定住化が勧められるように、一つの流れの中で施策を展開していただきたいです。

そこで、以下について伺います。

- (1) シティプロモーションの目指すところはなにか。島田市のあるべき姿のビジョンを教えてください。
- (2) 今回提案する定住化促進について、検討は可能か。

### 2. 子育て支援体制について

子育て支援日本一を掲げられる政策を実施するため、「子育ての段階別行政サービス早見表」の作成、待機児童のゼロの施策、乳幼児期の手厚い支援、母親のための様々な勉強会の開催に対する支援、安心して子育ての環境を迎えられる支援を行うべきだと考えます。

また、産後の女性が速やかに社会復帰できる環境を整備するため、産後の女性の積極的な雇用や、雇用に対する企業への優遇措置も検討していく必要があると考えています。

さらに、正しい子育て知識の普及のため、民間レベルで、様々な子育て知識の勉強が進んでいます。情報の発信において、受け手が情報を様々な選択できるようなシステムの確立も必要であると考えます。

そこで以下について伺います。

- (1) 現在の保育園の待機児童の現状を伺います。
- (2) その待機児童の解消のために特別な取り組みを今後予定しているのか伺います。
- (3) 女性の社会進出の支援として、産後女性の職場復帰対策として、民間企業と共同して政策展開することを考えているか伺います。
- (4) 民間の子育て支援サークルへの助成は考えているか伺います。

### 3. 市民活動支援について

市民活動は、社会問題を解決すること。公的なサービスの行き届かない部分に置いて、柔軟でありながら、市民が主体となって問題解決に望めることは、素晴らしいことです。

市民活動がさらに活発に、住民と地域と一体となって展開されれば、「島田って何かやってる!」、「島田は何か楽しそう」という機運が広がり、最終的な目標として、島田ファンとして定住化の促進が可能となると考えます。

そこで、以下について伺います。

- (1) 現在の島田市の市民活動支援はどのようなものか伺います。
- (2) 島田市まちづくり支援事業交付金があるが、今後増額や、更に幅広い活用を考えているか伺います。

## 10. 7番 森下文子さん (一問一答)

### 1. 島田市の観光について

島田市には、富士山静岡空港、新東名島田金谷インターチェンジがあり、空と陸の交通の利便性が優れていると思います。

また、現在はトーマスで話題になっている大井川鐵道、ギネスブックにも登録されている木造の“蓬莱橋”、自然豊かな中山間地域等、このほかにも全国的に誇れる観光資源はたくさんあります。

しかし、その素材が活かされているのか疑問です。

そこで、川根という中山間地域で活動しているものとして常に感じることは、今、県で力を入れている着地型観光や農林家民宿など、今後、民泊を増やし、それを活用した教育旅行的なツアー企画なども十分に考えられるのではないのでしょうか。

また、現在、「いいねかわね」を英訳し海外へ紹介したいとの問い合わせもあります。旧島田、旧金谷、旧川根といった地域で、島田市全体が一つのテーマパークとして積極的に「観光島田市」をアピールしていけばいいのではないかと思い、以下の質問をさせていただきます。

- (1) 着地型観光のあり方や教育旅行等も含め市の考えを伺います。
- (2) 先進地においても、農林家民宿と女性の関わりは大きいものがあります。女性の活動の場としても、今後の民泊活動の進め方を伺います。
- (3) 観光、地域の魅力発信等、マスメディアの活用は不可欠と思います。市としてはどのような取り組みまた考え方を伺います。
- (4) 平成 25 年度に作製した川根地域情報誌「いいねかわね」を活用する意味で、例えば英訳し海外及び国内に広範囲な宣伝をする考えがあるか伺います。
- (5) 観光事業のみならず、地域の活性化に関しては「まちづくり交付金」は大きな役割を果たしていると思います。現在の利用状況と今後の方向性について伺います。

## 11. 5番 柴田みよさん (一問一答)

### 1. 介護者支援について

私は、3年前に、神奈川県川崎市から島田市に転入してきました。

川崎市在住中、島田市に住んでいた夫の母が要介護となり、10年間ほど介護をした経験があります。また、島田市では介護相談員として特別養護老人ホームやデイサービス等の介護施設を訪問し、利用者や御家族から日頃の疑問や不満、良かったことや感じたことなどを伺っております。これまで様々な環境の中で介護に携わってきましたが、日頃、強く感じていることは、介護者への支援の必要性です。

川崎市では、介護者を支援するボランティア団体の活動が非常に盛んです。

一例としては、地域ボランティア団体による「ミニデイサービス」があります。ここでは、高齢者がデイサービスを受けている間に、同じ建物内で、家族は座談会や介護に関する勉強会が行われ、時には一緒にバス旅行等に参加してリフレッシュするものです。「ミニデイサービス」は、地域のボランティアによる運営なので、利用者が気軽に参加できることや、家族が安心してリフレッシュできること、また、介護者同士の情報交換や介護経験者のアドバイスが受けやすいなど、介護者を支援するたくさんのメリットがあります。

現在、身近で介護の悩みを抱えている方がいることや、島田市介護相談員として活動する中、以下について提案と質問をしたいと思います。

- (1) 介護者への支援として、初倉公民館等を拠点に介護者支援ボランティア団体を立ち上げ運営していきたいと考えていますが、市としてどう考えますか。
- (2) 市内各地域における、介護者支援ボランティア団体の立ち上げについて、市では支援する予定はありますか。

### 2. 小規模多機能施設について

介護保険における小規模多機能施設と複合型サービス施設は、利用者の状態や生活環境に応じて、ひとつの事業所の中で、通い、訪問、泊まりのサービスを組み合わせて受けることができます。

また、小規模多機能施設と複合型サービス施設は地域密着型サービスであり、高齢者が住み慣れた地域で介護サービスを受けながら、安心して生活し続けていくことのために、理想的な施設であると感じています。そこで、以下について質問します。

- (1) 2025年に向けて高齢者、要介護者の増加は懸念されていますが、利用者にとっても介護者にとっても理想的な小規模多機能施設を増設していく予定はありますか。